
転生チートオリ主（笑）が大好きなお前らに現実を見せる

臭い足の裏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生チートオリ主（笑）が大好きなお前らに現実を見せる

【Nコード】

N8105P

【作者名】

臭い足の裏

【あらすじ】

これ投稿したらいろんな人敵に回しそう。
そして宗教関係者の人たちごめんなさい。

（前書き）

言っておきますが、これは転生チートオリ主ものを否定するものではありません。

自分はそういうものは嫌いではありません。

ちょっと思ったことを書いただけです。怒らないでください！！

……ここはどこだ？

真っ白な、果てなどないと思わせる空間に俺はいる。

どうしてこんなところにいるんだ？ たしか俺は学校から帰る途中で——そうだ、トラックに轢かれたのを思い出した。

ということは俺は死んだのか。

ならばここは死後の世界か？ だとしたらなんとも味気ない空間だ。

「おう、いたいた」

何もすることがなかったのでボーっとしていたら、後ろから声をかけられた。

「うお！？ なんだお前は！？」

後ろを振り向いてみたら、眼鏡をかけたイケメンが立っていた。

ブサメンの俺にしちゃあ、敵だ。イケメン死ね。

「ツチ、何だよ下界人のゴミの癖に生意気な。てめえに俺の名を言う義理なんてねえよ。まあ、名は言わねえが神とでも言っておこうか」

下界人？ よくわからないことを言われたが、そんなことどうでもいい。いまこいつなんて言った？ 神だって？

これはもしかしたらもしかするぞおい。

「おまえは本来死ぬはずではなかったが、死んだ」

うひょおおおおお！！ この流れは転生オリ主くるんじゃねえか！？

なんか「下界人は体が脆くてすぐ壊れるから遊びづらいな」とか言ってるが関係ねえな！

「じゃ、じゃあ神様よ。俺はこれから転生すんだよな？」

「あ？ 転生？ まあ、後処理としてそうするかも知れねえが」

キタキタキター！！ オリ主キタ！

「じゃあさネギまの世界に転生させてくれよ！ 当然顔は超イケメンでな！ あと能力はエミヤの固有結界と弓の腕前と、魔力無限と不老不死にしてくれよ！ それと原作の600年前にしてくれよな！ エヴァを俺のハーレム要因に入れたいからな！」

俺がそう言つと、神は目を見開いて俺を見た。そうやって驚くパターンも二次創作の転生チートオリ主ものにたくさんあるから大丈夫だろう！

やつべー、どうやって原作ブレイクしてやるかなー。とりあえず原作組は俺のハーレムに入れるよな。ウヒョー、ドキがムネムネするぜ！

「下界人のクソがなに調子に乗ってんだ？ 俺は他にも遊びで死んだゴミを回収しに行かなきゃいけねえんだよ。てめえなんかにつける暇はねえの」

え？ 何この展開。二次創作にないぞ！

ていうかなんだよ！ 遊びで俺を殺しておいてなんだこの態度！ ふざけんじゃねえよ！

「おい！ お前遊びで俺を殺しておいて何様だよ！ こついうのは転生チートオリ主って決まってるだろ！」

「あ？ てめえらを遊びで殺して何様かだと？ 下界のクズのゴミになにを思えってんだよ。俺らにしちやあモルモットも下界人も一緒なんだよ。それに転生ちーとおりぬしとかいう下界のゴミどもが考えた常識なんて興味もないね。もうてめえ消えろ」

「え、ちょま——」

神がそう言いながら腕を振ると、男の姿はこの場から消え去った。——転生チートオリ主。やたらと腰の低い神様。その神に対してやたらと高圧的な主人公。

考えてみよう。神とはすべてにおいて高みに位置する存在。

そんな彼らがたかが一人の人間を殺してしまっただけで「すいませんでしたー！」と土下座するだろうか。否、しない！

神話とか知らないが、人間は神に養われていると聞いたことがある。そのことを考えると、家畜同然の人間に神はそんなに慈悲を与えるだろうか。ましてや転生チートオリ主になるようなことなんて否、与えない！

そしてやたらと高圧的な主人公。罰として神を自分の眷属にしたり、ぼこぼこにしたりと……他にもそのようなものがたくさんある。そしていきなり死んだと言われてパニックを起こさない強靱な精神力。もはやそれは人の領域を超えている。

まとめると、神にとって人間は蟻と一緒に存在であって、死んでもなにも罪悪感を感じない。

そして人間は神にそんな高圧的な行動を起こせるはずがない。

最後に作者が言いたいことは、

「創作なんだからどうでもいいんじゃない？」
ということだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8105p/>

転生チートオリ主（笑）が大好きなお前らに現実を見せる

2011年11月17日00時46分発行